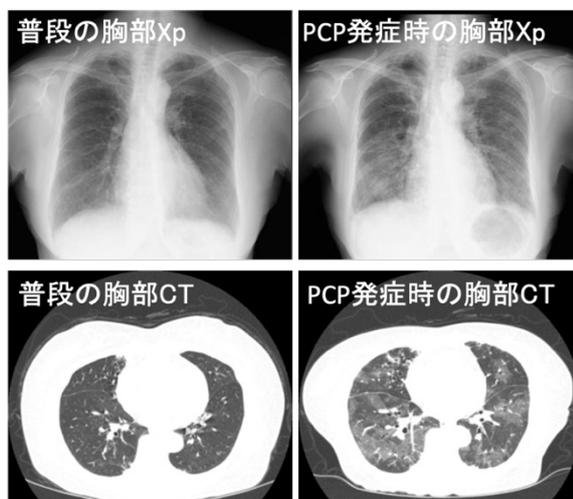


Pneumocystis jirovecii はカビ(真菌)の一種です。健康な人には通常害を及ぼしませんが、免疫力が低下した状態では肺で増殖し、Pneumocystic jirovecii 肺炎(PCP)を起こすことが知られています。関節リウマチの治療では免疫を抑える薬剤を使用するため、治療の過程でPCP 肺炎を発症するリスクが生じることが知られています。右図は当院で関節リウマチ治療中に PCP を発症された患者さんの普段の胸部レントゲン/胸部CTとPCP 発症時の胸部レントゲン/胸部CTをお示ししています。



関節リウマチの患者さんの中で、どのような患者さんが PCP を発症しやすいのか？ またにどのような治療薬の選択が PCP 発症のリスクを抑えることにつながるのか？ 私たちは、この疑問に答えるために、当院で関節リウマチ治療を受けられた患者さん(914名)の診療記録を遡って調べさせていただきました。

結果、間質性肺炎を合併している関節リウマチの患者さんで PCP 発症リスクが高いこと、さらに、サラゾスルファピリジンという抗リウマチ薬を内服していると PCP 発症を防げる可能性があることがわかりました¹⁾。

本研究成果は 2025 年 6 月、アジア太平洋地域のリウマチ学会(APLAR)の公式雑誌である International Journal of Rheumatic Diseases に掲載されました。こちらのリンクよりアクセスをお願いします。

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/1756-185X.70318>

本研究は、大阪刀根山医療センターの臨床研究審査委員会での承認を得て、病院長の許可を得て実施させていただきました。ご協力いただいた患者さんに感謝し、当院におけるリウマチ診療のさらなる質の向上に努めてまいります。

References

- 1) Hara Y, Nii T, Matsuki T, Tsujino K, Miki K, Miyama A, Takahi K, Kida H. Risk factors for Pneumocystis jirovecii pneumonia in rheumatoid arthritis: The protective potential of salazosulfapyridine. Int J Rheum Dis 2025; 28:e70318.